

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の助詞「は」とミャンマー語の助詞「####(tot)」
Author(s)	アウン リン トー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 35期 : 12 - 19
Issue Date	2020-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050139
Right	
Relation	



日本語の助詞「は」とミャンマー語の助詞「တော့(tot)」

アウン・リン・トー

1. はじめに

日本語の助詞「は」は様々な意味で使われている。ミャンマー語の助詞「တော့(tot)」も様々な使い方がされている。「は」と「တော့(tot)」は同じ意味で使う場合がある。例えば、日本語の「は」の「対比」の用法は「တော့(tot)」にもある。だから、ミャンマー語話者にとって、それは難しくない。しかし、「は」と「တော့(tot)」が同じ用法で使われていない場合は、日本語を学んでいるミャンマー人にとって難しい。「は」と「တော့(tot)」はどのような役割の違いがあるのだろうか。

2. 目的

「は」と「တော့(tot)」の意味、使い方と同じところ、違うところを明らかにしたい。

3. 先行研究

「は」に関するこれまでの研究で、「は」には主題と対比の用法があると述べられている。「တော့(tot)」に関する研究では、「တော့(tot)」は助詞であり、対比を表す取り立て助詞の用法があると言われている。「は」と「တော့(tot)」は「対比」を表す場合は一致するが、その他の場合はどうなっているのだろうか。

4. 方法

『みんなの日本語初級 I、II』で「は」はどのように使われているのかを調べた。そして、それはミャンマー語ではどのような意味になるのかをミャンマー語翻訳版で調べた。「တော့(tot)」についても、ミャンマー語翻訳版で使われている「တော့(tot)」は日本語のどれになるのかを『みんなの日本語初級 I、II』で調べた。

以下の用例の分類と説明は日本語記述文法研究会（2009）と大野（1996）に従った。

5. 主題を表す「は」

「は」は主題を表す典型的な表現である。

5.1 「は」は「က(ka)」

(1) わたしはマイク・ミラーです。

ကျွန်တော်က မိုက်မီလာ ပါ။

{ Kya naw ka mike mi lar par }

この文の「は」は、「は」の前にある名詞「わたし」がこの文の主題であることを示している。つまり、この文の「は」は主題を表す「は」である。その場合、ミャンマー語に訳すと「က(ka)」になる。「က(ka)」は主題を表す助詞で、これが最も一般的な文型である。

5.2 「は」は「သည်(thi)」

(2) サントスさんは学生じゃありません。

ဆန်းတိုးစုသည် ကျောင်းသားမဟုတ်ပါ။

{ san to su thi kyaung thar ma hoke par }

この文の「は」は、(1)と同じように主題を表す「は」である。しかし、同じ「は」でも、書き言葉の場合はミャンマー語では「က(ka)」の代わりに「သည်(thi)」を使う。「က(ka)」は会話でも、書くときでも使われているが、「သည်(thi)」は書くときしか使われていない。つまり、書くときは「က(ka)」も「သည်(thi)」も使うが、会話では「က(ka)」しか使われていないと言える。

5.3 助詞が何も使われない場合

(3) わたしは毎日6時に起きます。

ကျွန်တော် () မနက်တိုင်း နေ့စဉ်မှာ အိပ်ကုထတယ်။

{ kya naw () ma nat tine chauk nar yi hmar ate yar hta tal }

(4) それは何ですか。

အဲဒါ () ဘာလဲ။

{ e dar () bar lae }

(3)、(4)は、助詞が何も使われない場合である。ミャンマー語では砕けた言い方で助詞が何も使われない。日本語でも(5)、(6)のように主語を表す助詞を使わない場合がよくある。

(5) わたし () 毎日6時に起きる。

(6) それ () 何。

5.4 「は」は「မှာ(hmar)」

(7) サントスさんは電子辞書を持っています。

ဆန်းတိုးစုမှာ လျှပ်စစ်အဘိဓာန်ရှိတယ်။

{san to su hmar hlaut cit a bi dan shi tal }

(7) の文の「は」はミャンマー語に訳すと「မှာ(hmar)」になる。「မှာ(hmar)」は場所<～に、～で>、時間<～に>を示す助詞として使われる。(7) のような言い方はミャンマー語にはなく、上に書いたミャンマー語を日本語で直訳すると下記のようなになる。

(8) ဆန်းတိုးစုမှာ လျှပ်စစ်အဘိဓာန်ရှိတယ်။
サントスさんに電子辞書があります。

6. 対比を表すとりたて助詞「は」

対比とは、複数の同類のものを比べることである。対比のとりたてとは、文の中のある要素をとりたてて、それと同類のものとの違いを示すことである。(日本語記述文法研究会 2009 : p. 29)

対比を表す「は」は、主題を表す働きが弱く、対比的な意味を表す働きが強い。

(9) ビールは飲みますが、ワインは飲みません。
ဘီယာတော့သောက်ပေမယ့် ဝိုင်တော့မသောက်ဘူး။
{ be yar tot thout pay mae wine tot ma thout buu }

(10) 父は怖いですが、母は優しいです。
အဖေကတော့ ကြောက်စရာကောင်းပေမယ့် အမေကတော့ သဘောကောင်းတယ်။
{ aphay ka tot kyout za yar kaung pay mae amay ka tot thabaw kaung tal }

このように同じ種類の2つの要素「ビール」と「ワイン」に対して、それぞれの述語「飲みます」と「飲みません」が対立しているような場合、「ビール」と「ワイン」の両方が対比を表す「は」でとりたてられている。(9) の「飲みます」と「飲みません」のように肯定・否定の対立が典型的だが、(10) のように形式的な対立ではなく意味的な対立の場合もある(日本語記述文法研究会 2009 : p. 31)。このように「は」が対比を表す場合、ミャンマー語では「တော့(tot)」になる。「တော့(tot)」は対比を表す助詞で、否定文によく使われる。

6.1 否定文の「は」

否定文では、肯定文より「は」がよく用いられる。

(11) 火事が起きたら、エレベーターは使わないでください。
မီးလောင်မှုဖြစ်ပွားလျှင် ဓာတ်လှေကားတော့
မသုံးပါနဲ့။
{ mee laung hmu phyit pwar hlin dart hlay gar tot ma thone par nae }

否定文を使うときは肯定文を意識しやすいため、対比の相手が想定されやすいのである。このような否定文で用いられる「は」は基本的には対比を表す「は」である（日本語記述文法研究会 2009 : 33）。だから、ミャンマー語には「တော့(tot)」になる。

6.2 1文に複数の「は」がある場合

(1 2) 安くても、私はグループ旅行は嫌いです。

ဈေးသက်သာလည်း ကျွန်တော်က

{ zay thet thar lae kya naw ka oak su lite khayee htwat ya tae tot ma kyite par buu }

一文の中に複数の「は」があるとき、(1 2)の「私は」のように、最初に現れる「は」は、主題を表す機能が強くなる（日本語記述文法研究会 2009 : p. 185）。だから、その「は」はミャンマー語では「က(ka)」になる。

逆に、「グループ旅行は」のように、2番目以降に現れる「は」は、主題を表す機能は弱くなる（日本語記述文法研究会 2009 : p. 185）。その「は」はミャンマー語では「တော့(tot)」になる。

6.3 ほかの助詞との結合

ほかの助詞と結合する場合の「は」は対比を表す「は」である。

(1 3) 田中さんにはわたしが連絡します。

တနင်္ကကိုတော့ ကျွန်တော်ဆက်သွယ်လိုက်ပါမယ်။

{ tanaka ko tot kya naw sat thwe lite par mel }

(1 4) 山田さんからは返事は来ませんでした。

ယာမာတဆီကတော့ အကြောင်းပြန်မလာခဲ့ပါဘူး။

{ yamada hsika tot a kyaung pyan ma lar khae par buu }

「は」はほかの助詞と結合する場合は対比の意味をともに表す。そのような場合の「は」はミャンマー語では「တော့(tot)」になる。

7. 「တော့(tot)」

7.1 「တော့(tot)」の一般的な形（「တော့(tot)」 + 「မယ်(mel)」）

(1 5) အခုကစပြီး အိုဆာကာဂဲတိုက်ကို လေ့လာတော့မယ်။

{ a khu ka sa pyee osaka yell tike ko layla tot mel }

今から大阪城を見学します。

(1 6) စာလုပ်တော့မယ်။

{ sar lote tot mel }

今から勉強します。

「တော့(tot)」は基本的に「今から～します」という意味を表し、未来を表す終助詞「မယ်(mel)」と一緒に使う。(15)のように「今から」を意味する「အခုကစပြီး(a khu ka sa pyee)」とともに使う場合もあるが、(16)のように「တော့(tot)」のみ使う場合もある。「တော့(tot)」は動詞の後に付ける。

7.2 理由

(17) မြည်းကြည့်တော့ ကောင်းတာနဲ့ သောက်လိုက်တယ်။

{ myee kyi tot kaung tar nae thout lite tal }

味わってみたところ、美味しかったので飲んだ。

(18) ခင်ဗျားကမပြောတော့ ကျွန်တော်ကပြောတော့မယ်။

{ khin byar ka ma pyaw tot kya naw ka pyaw ya tot mel }

あなたが言わないものだから、私が言わなければならない。

(19) လေးနာရီထိုးတော့ ကျွန်တော့်ကို

ပြန်တော့လို့ပြောတယ်။

{ lay nar yi htoe tot kya naw ko pyan tot loh pyaw tal }

4時になると、私に帰れと言った。

このように「တော့(tot)」は理由を表す。(17)の「～たところ」、(18)の「～ものだから」、(19)の「～すると」が「တော့(tot)」の意味である(大野 1996 : p.191)。最初に出て来る理由節の動詞の後に「တော့(tot)」が付けられる。

7.3 対比を表す「တော့(tot)」

この節の(20)と次節7.4の(21) (22)は上の例(9) (13) (14)の日本語とミャンマー語を入れ替えたものである。

(20) ဘီယာတော့သောက်ပေမယ့် ဝိုင်တော့မသောက်ဘူး။

{ be yar tot thout pay mae wine tot ma thout buu }

ビールは飲みますが、ワインは飲みません。

このような「တော့(tot)」は対比を表す取り立て助詞として使われ、この場合は日本語のとりたて助詞「は」になる。

7.4 ほかの助詞との結合

- (2 1) တနင်္ဂနွေတော့ ကျွန်တော်ဆက်သွယ်လိုက်ပါမယ်။
 { tanaka ko tot kya naw sat thwe lite par mel }
 田中さんにはわたしが連絡します。
- (2 2) ယာနုတဆီကတော့ အကြောင်းပြန်မလာခဲ့ပါဘူး။
 { yamada hsika tot a kyaung pyan ma lar khae par buu }
 山田さんからは返事は来ませんでした。
- (2 3) ဂှာသီဥတုကောင်းတဲ့နေ့မှာတော့ ပင်လယ်ကိုမြင်ရတယ်။
 { yar thi oo tu kaung tae nay hmar tot pin lal ko myin ya tal }
 天気がいい日にはは海が見えます。
- (2 4) ပိတ်ဂုဏ်နေ့မှာတော့ အားကစားလုပ်တယ်။
 { pike yet nay hmar tot arr ga zar lote tal }
 休みの日にはは運動します。

「တော့(tot)」はほかの助詞と結合する場合、その助詞の意味と対比の意味をともに表す。そのような場合の「တော့(tot)」は日本語では「は」になる。(2 5)のように副詞に付くこともある。

- (2 5) အတိအကျတော့ မမှတ်မိဘူး။
 { ati akya tot ma hmark mi buu }
 はっきりとはは覚えていない。

7.5 未来形 (「တော့(tot)」 + 「မယ်(mel)」)

「တော့(tot)」は動詞の後、未来の意味を表す終助詞「မယ်(mel)」の前に使う。そのような場合、「တော့(tot)」 + 「မယ်(mel)」は近接未来<そろそろ、やがて、間もなく、もうすぐ、もう>を表す。(大野 1996 : p. 230)

- (2 6) သေရတော့မယ်။
 { thay ya tot mel }
もうすぐ死ぬだろう。
- (2 7) နေဝင်တော့မယ်။
 { nay win tot mel }
そろそろ日が沈む。
- (2 8) ထမင်းစားတော့မလာ။
 { hta min sar tot ma lar }

もうご飯を食べますか。

7.6 「တော့(tot)」 + 「တယ်(tal)」

「တော့(tot)」が動詞の後、終助詞「တယ်(tal)」の前に付く場合、日本語では「遂に」、
「とうとう」などになる。(大野 1996 : p. 230)

「တယ်(tal)」は動詞に付く終助詞である。事実を述べると同時に、これを肯定する叙述
形は、動詞に終助詞「တယ်(tal)」を付ける。(大野 1996 : p. 91)

(29) ဝိုကြွေးတော့တယ်။
{ ngo kway tot tal }
遂に泣き出した。

(30) သေသွားတော့တယ်။
{ thay thwar tot tal }
とうとう死んだ。

7.7 命令文

「တော့(tot)」は命令文にも使われる。(大野 1996 : 230)

(31) မြန်မြန်ပြေးတော့။
{ myan myan pyay tot }
早く逃げなさい。

(32) အခုပဲ စားတော့။
{ akhu pel sar tot }
さあ、今食べなさい。

このような場合、「တော့(tot)」は日本語の「～なさい」に当たり、動詞の後につく。

7.8 禁止文 (「တော့(tot)」 + 「နဲ့(nae)」)

「တော့(tot)」は禁止文でも使われる(大野 1996 : p. 230)。禁止文の場合、「တော့(tot)」
は禁止の表現「နဲ့(nae)」の後に付く。「နဲ့(nae)」は日本語では「～するな」になり、
「တော့(tot)」 + 「နဲ့(nae)」を日本語に訳すと日本語の禁止形「もう～するな」になる。

(33) မဝိုပါနဲ့တော့။
{ ma ngo par nae tot }
もう泣くなよ。

(34) စကားမပြောနဲ့တော့။

{ za gar ma pyaw nae tot }

もう喋るな。

8. 結果

『みんなの日本語初級 I、II』で使われている「は」をミャンマー語に訳すと8つの意味になり、ミャンマー語に訳された教科書で使われている「တော့(tot)」を日本語に訳すとそれも8つの意味になる。「は」と「တော့(tot)」の意味や使い方と同じなのは「対比を表す取り立て助詞」として使われているところ、否定文の中で使われているところなどである。そして、「တော့(tot)」は他の助詞と結合して使われることが多いと言える。「တော့(tot)」は「は」と違い、名詞と動詞の両方につくということが明らかになった。動詞の後に使われる「တော့(tot)」は副助詞とされている(大野 1996 : p. 198)が、副助詞として使われている「တော့(tot)」が日本語で何と訳されるかはこのレポートでは分析の対象が1件だけだったため、十分な例を示すことができていないと感じる。他の資料の分析も時間がなく出来なかったことが悔やまれ、今後の課題となる。

参考文献

- (1) 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法⑤』 くろしお出版
- (2) 大野 徹 (1996) 『現代ビルマ語入門』 泰流社
- (3) မြန်မာစာအဖွဲ့ (2013) မြန်မာသဒ္ဒါ တက္ကသိုလ်များပုံနှိပ်တိုက်
〔ミャンマー語学協会 (2013) 『ミャンマー語文法』 大学出版〕
- (4) 『みんなの日本語初級 I』 (2012) スリーエーネットワーク
- (5) 『みんなの日本語初級 II』 (2012) スリーエーネットワーク
- (6) 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説ビルマ語版』 (2018) スリーエーネットワーク
- (7) 『みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説ビルマ語版』 (2018) スリーエーネットワーク